

Title	「文化」の解釈(19) : 文化とメディア はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2019, 2018
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/72715
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2018」の一環として、「〈文化〉の解読 (19) -文化とメディア-」という名称の下、合計 7 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、3 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名はマルチリンガルセンターに所属する教員、1 名は同志社大学グローバル地域文化学部
に所属する教員であり、2 名は大学院言語文化研究科博士後期課程に在籍している。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」(2000 年度)、「〈文化空間〉の政治学」(2001 年度)、「文化の政治性／政治の文化性」(2002 年度)、「文化批判の機能をめぐって」(2003 年度)、「文化生産の諸相」(2004 年度)、「文化受容のダイナミクス」(2005 年度)、「システムとしての文化」(2006 年度)、「想像力としての文化」(2007 年度)、「文化とアイデンティティ」(2008 年度)、「文化と身体」(2009 年度)、「文化とトポス」(2010 年度)、「文化と歴史／物語」(2011 年度)、「文化とコミュニティ」(2012 年度)、「文化と公共性」(2013 年度)、「文化と翻訳」(2014 年度)、「文化と権力」(2015 年度)、「移動と衝突の文化現象」(2016 年度)、「神話的なものとその解体」(2017 年度)。19 年目となる 2018 年度は、「文化とメディア」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 7 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、古代中国の道家の思想が今日のわれわれにとってなお重要性をもちうるかどうかを問うている。津田論文は、ブランケンブルクの『小説試論』における近代小説の人間学的特質を人間の内面性の重視という点において考察している。宮崎論文は、四人姉妹・五人姉妹を描き分ける近代の著名な文学作品を三作品分析し、そうした物語の中で女性像を多様化するダイナミズムだけでなく、女性像の多様性を制限するような女性性の規範が働いていることについて、比較しながら論じている。李論文は、戦時の映画雑誌『満州映画』の日文版と満文版をスターの表象を中心に比較し、文化的武器としてのこの雑誌の性格をあきらかにしている。徐論文は、川端康成の原作小説と比較しながら、篠田正浩の映画『美しさと哀しみと』におけるレズビアン表象の特徴を分析している。山本論文は、東ドイツ映画における建築物のイメージに着目し、瓦礫から出発して疎外の風景へといたる道筋を描写している。阿部論文は、EU 市民発案「マイノリティー・セーフパック・イニシアチブ」に関する最新情報を分析し、同市民発案の進行状況と、EU 共通の少数民族保護法制定の可能性を探っている。

本冊子がささやかながらも文化研究の発展に寄与できることを祈りつつ。

2019 年 5 月

執筆者一同